

れき じん

# となん歴史民だより vol.47

Morioka tonan history and folklore museum

平成 28 年 6 月 27 日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



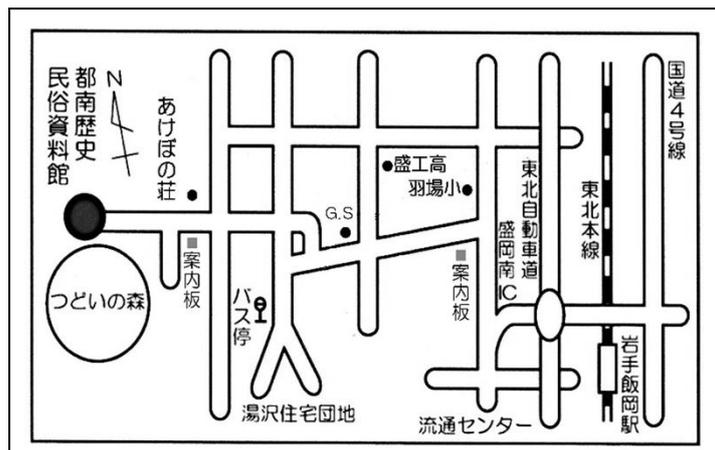
第 25 回国民体育大会 大会旗・炬火リレー 見前農協付近 (昭和 45 年、個人蔵)

## 是非ご来館ください。お待ちしております。

### — もくじ —

- 旧都南村の記録写真の活用
- 企画展「岩手国体×都南」
- 次回企画展のご案内
- 資料は語る④
- 盛岡市所在  
指定・登録文化財紹介④
- となんの昔ばなし④

### MAP☆ACCESS



### ○利用案内

#### 開館時間

午前9時から  
午後4時まで

#### 入館料

無 料

#### 休館日

月曜日  
(休日に当たるとき  
は、直近の平日)、  
年末年始

## 旧都南村の記録写真の活用

盛岡市都南歴史民俗資料館 学芸調査員 河野 聡美

当館の常設展や企画展で旧都南村を紹介する際、昭和30年代以降の記録として特に参考となるのが「広報となん」である。旧見前村・飯岡村・乙部村が合併し都南村が誕生した昭和30年(1955)から、月に1~2度旧都南村の企画課が編集・発行した広報である。昭和54年(1979)と平成2年(1990)に、縮刷版として2冊発行されている。当時の様子を写した写真が多数掲載されており、この時期の村内の変化や行事、風習については大いに参考となる。

当館では、昨年の都南村関係資料の所在調査で旧都南村の時期のポジフィルム(盛岡市蔵)の所在を確認していた。このフィルムについて、企画展「岩手国体×都南」での活用を目指し他館の協力を得てデジタル化の作業を行った。個々のフィルムには、撮影場所や行事名が記載されているものもあるが、記載がないものも多いため何が写っているか写真から判断する必要がある。また、年代についてもほぼ記載がないため、今後個々の写真については地域の方々から協力を得ながら年代の特定などを進めていかなければならない。今回デジタル化した写真は、施設や史跡、行事関係が中心であった。このほかに、当館では市内湯沢地区における地域の衣・食・住について記録した写真の所在を確認しており、今後の展示における活用を予定している。今後も、都南地域における記録写真等の所在確認と収集、デジタル化を進めていきたい。



盛岡市中央卸売市場



都南村体育祭(昭和45年)



岩手飯岡駅



旧都南村役場前(昭和45年)

# 企画展「岩手国体×都南」

当館では、平成 28 年 5 月 21 日(土)から 6 月 26 日(日)まで企画展「岩手国体×都南」を開催いたしました。本年、第 71 回国民体育大会「希望郷いわて国体」および第 16 回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が岩手県で開催されるため、初めて本県で開催された昭和 45 年(1970)の第 25 回国民体育大会を中心に、当時の都南地域と国体との関わりについて紹介しました。

旧都南村には、当時の国体における競技会場はありませんでしたが、県内の各市町村民が走者となった大会旗・炬火リレーへの参加や、秋季大会閉会式における場内レクリエーションとして村民約 200 名が郷土芸能「都南のさんさ踊り」を披露するなど、様々なかたちで大会と関わりました。また、体操やラグビー、ハンドボール、ライフル競技などに都南地域から選手が出場しており、当時の競技資料も展示しました。このほか、秋季大会開催期間中の昭和 45 年 10 月 13 日には、当時津志田に所在した岩手県工業試験場(現地方独立行政法人岩手県工業技術センター)を昭和天皇と皇后が視察に訪れており、視察の様子を記録した当時の写真アルバム(地方独立行政法人岩手県工業技術センター所蔵)も展示しました。

本展を通して、今年開催される第 71 回国民体育大会「希望郷いわて国体」および第 16 回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」への関心が高まることを期待するとともに、当館でも両大会を応援していきたいと思っております。



秋季大会閉会式にあたり披露された都南のさんさ踊り  
(盛岡市提供)



ハンドボール競技ユニフォーム(個人蔵)



## 次回企画展のご案内

企画展『「衣」からみる農家の暮らし』  
平成 28 年 7 月 30 日(土)～9 月 19 日(月・祝)  
当館所蔵資料を中心に、都南地域の農家の人々が生活で身につけていた衣服について紹介します。

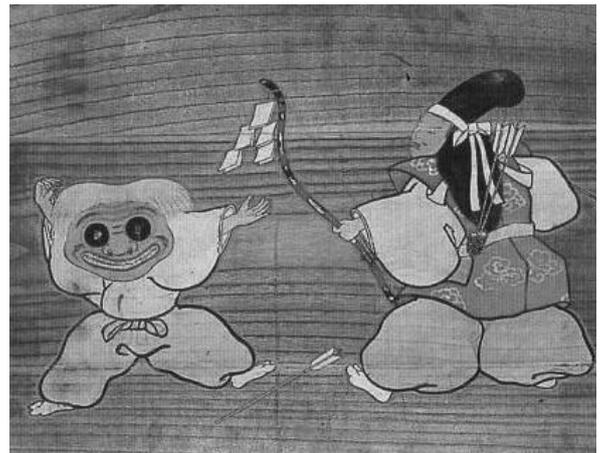


【レコード 都南音頭】

「都南音頭」は、都南村の由来と自然を盛り込んだ村民の愛唱歌として制作されたものです。一般から歌詞を募集し、昭和58年(1983)11月13日に見前中学校講堂で都南音頭発表会が開催されました。歌詞は三本柳在住の高畑庄三氏、作曲は東芝所属の作曲家山中博氏、歌は山形県出身の民謡歌手葵ひろ子氏(当時)によるもので、歌詞には「きゃら木(夏屋敷のキャラボク)」「都南大橋」などがあり都南地域の特色があらわれています。「都南村民歌」とともに、旧都南村を代表する曲となっています。

参考：都南村役場企画課「広報となん縮刷版Ⅱ」(1990)

盛岡市指定有形民俗文化財



大宮神社の多賀神楽絵額 12面

盛岡城下の多賀(現在の清水町)に鎮座していた多賀大明神へ奉納されていた多賀神楽の演目を描いた絵額です。文化5年(1808)に榊山稻荷へ奉納されましたが、後に現在地へと移されました。多賀神楽は、文化3年(1806)11代藩主南部利敬により神楽師らが江戸で里神楽十二座を学び盛岡へ持ち帰ったのが始まりとされ、12面の絵額には構図や描写を活かし演目の特徴的な場面が描かれています。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

『砂子姫の奮戦 一』となんの昔ばなし四十七

砂子姫が堂々と引き返す姿を見た斯波氏の兵のうち、日詰大内蔵が戦いを挑みましたが、砂子姫の刀を受け損ない切りつけられました。そこで、梁田大学と岩清水右京が砂子姫の左右から組み付きましたが、ねじ伏せられ首を切られそうになりました。そこへ、斯波氏の重臣長岡八左衛門が馳せてきて加勢しますが収まりません。ついに、砂子姫に投げ飛ばされてしまった二人は、長岡八左衛門とともに逃げ去りました。「やあ、やあ、臆病者ばかりかな」と、砂子姫は笑いながら引きあげました。なんとも、あっぱれな姿ではありませんか。

飯岡館は小規模ではありますが、優秀な家臣がいるため攻め落とすことができないと思つた斯波軍は、夜中に館の裏山に登り、山に火をつけました。火は西風に激しく燃え館にもうつりました。飯岡の兵は防ごうとしますが、とうとう大火になり悔やみながら若の館、三の丸へと移りました。これを見た斯波の兵は、勇んで攻めてきます。飯岡館の中に、京都からきた岡本兵馬という鉄砲の名人がいて、門の外へ進み出て敵兵を鉄砲で打ちました。また、岩倉常太郎らが弓で攻撃したため、斯波の兵は慌てて引き返していききました。長岡八左衛門は、斯波詮元へ「このたび味方が敗れたのは、敵のなかに鉄砲や弓に秀でた者がいるためです。城を焼き払っても、味方が勝てる見込みがありません」と述べました。なるほどと納得した斯波詮元は、しばらく考え敵の食糧が尽きるまで取り囲み、夜攻め入るべしと提案しました。

出典『となんの民話』(都南歴史民俗資料館、一九八八)